

第1回防災国際フォーラム

被災者支援へ理解を

と赤磐市
AMD A

て各自治体や医療機関との協力体制構築を進めていることを紹介。内戦からの復興支援の一環で8月にスリラン

国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市）と赤磐市による「第1回防災国際フォーラム」が19日、同市桜が丘東の桜が丘いきいき交流センターで開かれ、市民らがAMD

地で展開する緊急医療活動を説明した上で、「支援する際は、助けられる側のプライドを傷つけないことが大切。困ったときはお互いさまという相互扶助が理念にある」と話した。

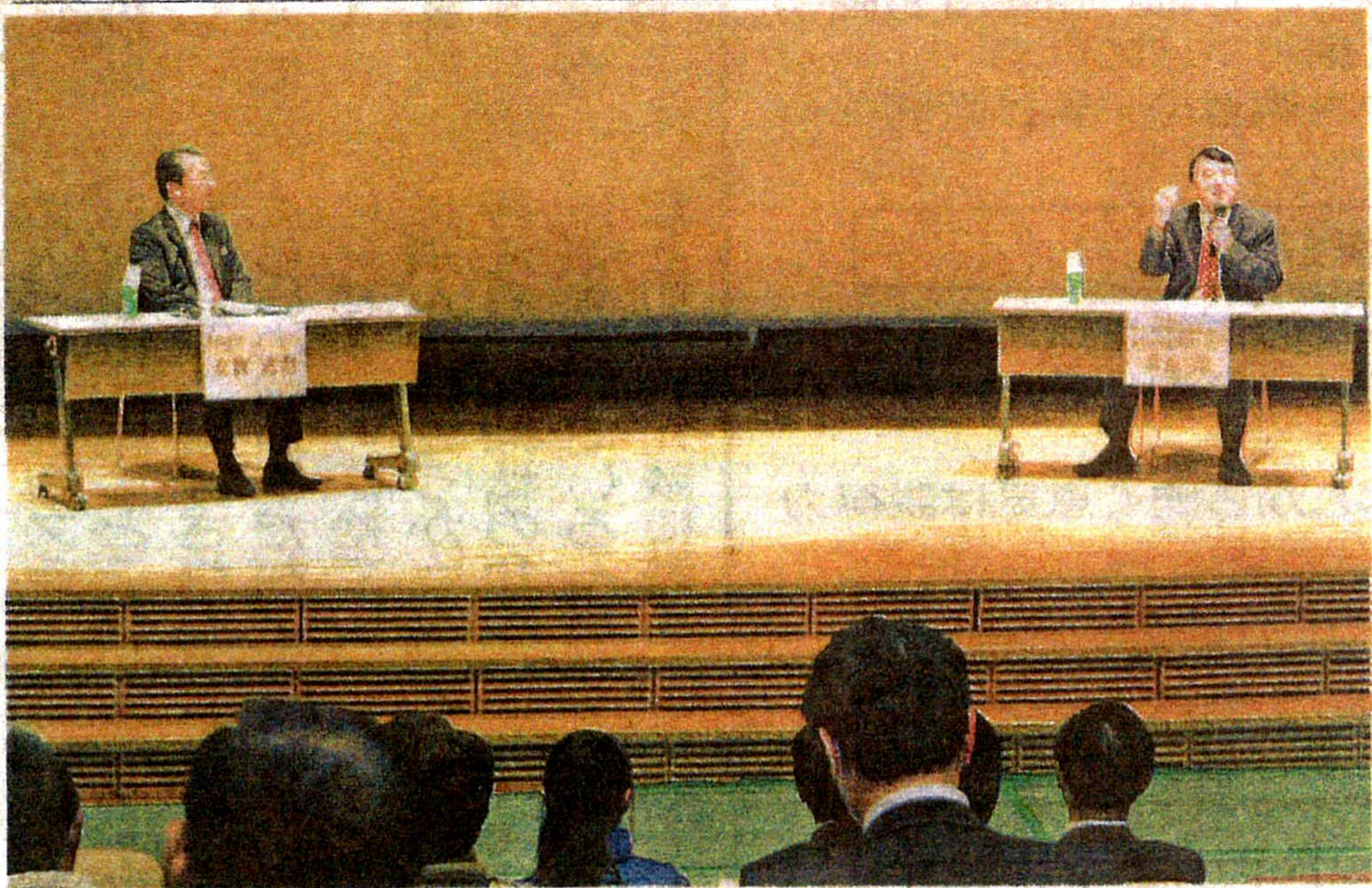
Aの活動や被災者支援への理解を深めた。AMD Aと市が昨年12月に結んだ連携協定に基づき企画。AMD Aグループの菅波茂代表と友実市長が対談した。菅波代表は各

友実市長は、同協定によって4月からAMD Aに市職員を派遣していることに触れ、「災害の実態を知って市の防災力を高めるだけでなく、被災者支援の経験を生かし、心の通う行政サービスにつなげたい」と述べた。

続いて、AMD Aが南海トラフ地震に備え

力を訪れて現地の子どもたちと交流した「AMD A中学高校生会」による活動報告もあった。約70人が聴いた。

（伊東圭一）



対談する菅波代表（右）と友実市長